

羽衣

世阿弥作

ワキ 漁夫白龍
ツレワキ 同行漁夫
シテ 天人

季は 地は 駿河
春 駿河

「風早の。三穂の浦回をこぐ舟の。浦人さわぐ浪路

かな。

ワキサシ「是は三保の松原に。白龍と申す漁夫にて候。

ワキツレ「万里の好山に雲忽におこり。一楼の明月に雨はじめて晴れり。げにのどかなる時しもや。春のけしき松原の。浪立ちつゞく朝霞。月ものこりの天の原。及なき身のながめにも。心そらなるけしきかな。

下歌

「わすれめや。山路をわけて清見がた。はるかに三保の松原に。たちつれいざやかよはん。

上歌

「風向ふ。雲の浮浪たつと見て。く。釣せで人やかへるらん。待てしばし春ならば。吹くものどけき朝風の。松は常盤の声ぞかし。浪は音なき朝なぎに。釣人おほき小舟かな。く。

「われ三保の松原にあがり。浦のけしきをながむる所に。虚空に花ふり音楽きこえ。靈香四方に薰ず。

是たゞことゝ思はぬ所に。これなる松にうつくしき衣かゝれり。よりてみれば色香たへにして常の衣にあらず。いかさま取りてかへり古き人にも見せ。家の宝となさばやと存じ候。

シテ詞
「なふその衣はこなたのにて候。何しにめされ候ふぞ。

ワキ「是はひろひたる衣にて候ふ程に取りて帰り候ふよ。

シテ
「それは天人の羽衣とて。たやすく人間にあたふべき物にあらず。本のごとくに置き給へ。

ワキ「そもそも此衣の御ぬしとは。さては天人にてましますかや。さもあらば末世の奇特にとゞめおき。國の宝となすべきなり。衣をかへす事あるまじ。

シテ
「かなしやな羽衣なくては飛行の道も絶え。天上にかへらんことも叶ふまじ。さりとては返したび給へ。

ワキ

「此御詞を聞くよりも。いよく白龍力を得。本より此身は心なき。天の羽衣とりかくし。かなふまじとて立ちのけば。

シテ
「今はさながら天人も。羽根なき鳥の如くにて。あがらんとすれば衣なし。

ワキ
「地にまた住めば下界なり。

シテ
「とやあらんかくやあらんと悲しめど。

ワキ
「白龍衣をかへさねば。

シテ
「力及ばず。

ワキ
「せんかたも。

地
「涙の露の玉鬘。かざしの花もしをくと。天人の五衰も。目のまへに見えてあさましや。

シテ
「天の原ふりさけみれば霞たつ。雲路まどひてゆくへ知らずも。

下歌地
「住み馴れし空にいつしかゆく雲の。羨ましきけしきかな。

「迦陵頻迦のなれくし。く。声今さらにわづかなる。雁金のかへりゆく。天路を聞けばなつかしや。千鳥鷗の沖つ浪。ゆくか帰るか春風の。空に吹くまでなつかしや。く。

ワキ詞
「いかに申し候。御姿を見たてまつれば。あまりに御痛はしく候ふ程に。衣をかへし申さうするにて候。

シテ
「あらうれしやこなたへ給はり候へ。

ワキ
「しばらく。うけたまはり及びたる天人の舞楽。たゞ今こゝにて奏し給はゞ。衣をかへし申すべし。

シテ
「うれしやさては天上にかへらん事をえたり。此よろこびにとてもさらば。人間の御遊のかたみの舞。月宮をめぐらす舞曲あり。たゞ今こゝにて奏しつゝ。世のうき人に伝ふべし。さりとては先かへし給へ。
くては叶ふまじ。さりとては先かへし給へ。

ワキ
「いや此衣をかへしなば。舞曲をなさで其まゝに。

天にやあがり給ふべき。

シテ
「いや疑ひは人間にあり。天に偽りなき物を。

ワキ
「あら恥かしやさらばとて。羽衣を返しあたふれば。

シテ
「少女は衣を着しつゝ。霓裳羽衣の曲をなし。

ワキ
「天の羽衣風に和し。

シテ
「雨に湿ふ花の袖。

ワキ
「一曲をかなで。

シテ
「舞ふとかや。

地次第
「東遊の駿河舞。く。此時や始めなるらん。

クリ
「それ久堅の天といつぱ。二神出世のいにしへ。十
方世界をさだめしに。空はかぎりもなければとて。
久方のそらとは名づけたり。

シテサシ
「しかるに月宮殿のあります。玉斧の修理とこしな

へにして。

地
「白衣黒衣の天人の。数を三五にわかつて。一月夜々

の天乙女。奉仕をさだめ役をなす。

シテ
「我もある天乙女。

地
「月の桂の身を分けて。仮に東の駿河舞。世に伝へ

たる曲とかや。

クセ
「春霞。たなびきにけり久かたの。月の桂も花やさ
く。げに花かづら。色めくは春のしるしかや。お
もしろや天ならで。こゝも妙なり天津風。雲の通
路吹きとぢよ。乙女の姿しばし留まりて。此松原

の。春のいろを三保が崎。月清見渴富士の雪。い
づれや春のあけばの。たぐひ浪も松風も。のどか
なる浦のありさま。そのうへ天地は。何を隔てん
玉垣の。内外の神の御末にて。月も曇らぬ日の本
や。

シテ
「君が代は。天の羽衣まれに来て。

地
「撫づとも尽きぬ巖ぞと。聞くも妙なり東歌。声
そへてかずくの。笙笛琴箜篌。孤雲の外に満

ちくちく。落日の紅は。蘇命路の山をうつして。
緑は浪に浮島が。払ふ嵐に花ふりて。げに雪をめ
ぐらす。白雲の袖ぞ妙なる。

シテ
「南無帰命月天子。本地大勢至。

シテワカ
「東遊の舞の曲。 (序の舞)

シテワカ
「あるひは。天つ御空の緑の衣。

地
「又は春立つ霞の衣。

シテ
「色香も妙なり乙女の裳。

地
「左右左左右颯々の。花をかざしの天の羽袖。なび
くもかへすも舞の袖。 (破の舞)

地
「東あそびのかずくに。く。その名も月の色人
は。三五夜中の空に又。満願真如の影となり。御
願円満国土成就。七宝充满の宝を降らし。国土に
是をほどこし給ふ。さるほどに時うつゝて。天の
羽衣浦風に。たなびきたなびく二保の松原。浮島
が雲の。足高山や富士の高嶺。かすかになりて天

つみそらの。

霞にまぎれて失せにけり。

底本：国立国会図書館デジタルコレクション『謡曲評釈 第一輯』大和田建樹著